

■ 目的

身体障害者のための通信・放送役務(以下「役務」という。)の提供又はこれまで実施されていない役務の開発に必要な資金について、NICTが予算の範囲内で助成措置を講ずることにより、身体障害者の利便の増進に資することを目的としています。

- ・ 身体障害者：視覚障害、聴覚又は平衡機能の障害、音声機能、言語機能又はそしゃく機能の障害、肢体不自由及び内部障害のある者をいう。
- ・ 役務：通信・放送を利用して身体障害者の利便の増進に資するものも含む。
- ・ 開発：役務を提供するための実証等をいう。開発後に当該役務の提供を行うことが条件。

■ 助成対象事業

身体障害者の利便増進に著しく寄与する情報通信技術(ICT)を利活用した役務の提供又は開発を行う事業です。

〈例〉身体障害者のコミュニケーションや情報アクセス、映像視聴や芸術鑑賞、行動等を支援するもの

■ 助成金の上限

助成対象事業の実施に必要な経費のうち、NICTが助成することを認めるもので、

- 新規事業：助成対象経費の2／3に相当する額又は2,000万円のいずれか低い額
- 継続事業：助成対象経費の1／2に相当する額又は1,500万円のいずれか低い額を限度とします。(予算額及び助成対象事業の数によって更に低減することがあります。)

■ 助成回数

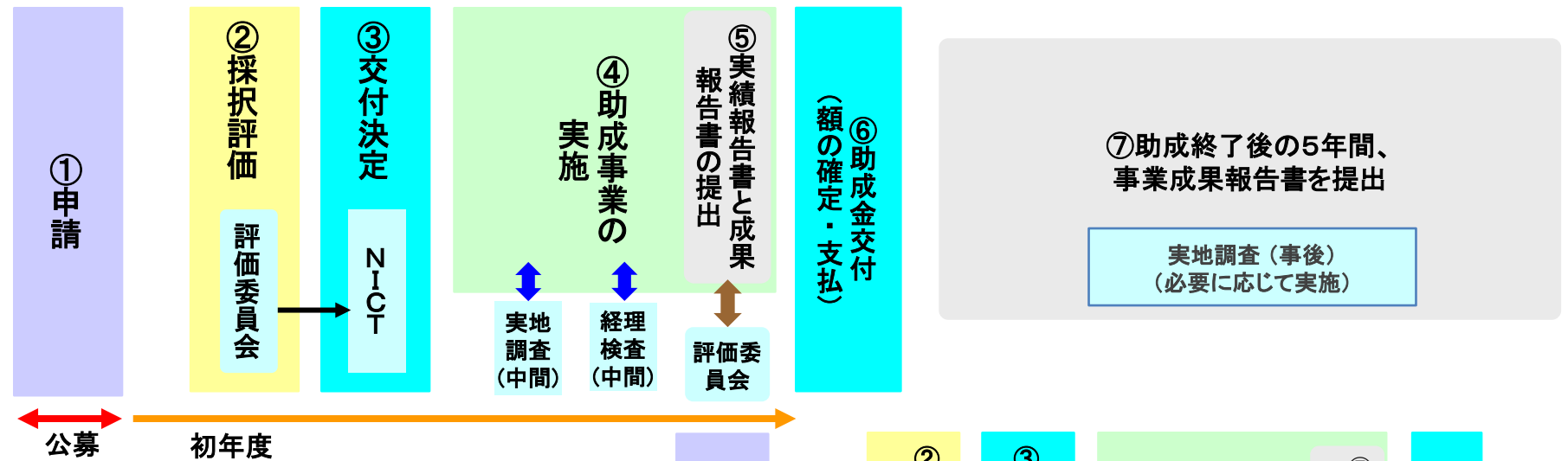
一の事業者が行う同一の事業に対して助成金を交付できる回数は、3回まで。

■助成対象経費の費目と範囲

助成対象経費は、助成期間（助成金交付決定日からその年度末日まで）において発生・支出された経費であって、助成対象事業の実施に必要な経費のうち、外注費・委託費、労務費、消耗品費、諸経費、旅費・交通費が対象となる経費です。

費目		助成対象経費の範囲
Ⅰ 外注費・委託費		助成対象事業に必要な機械装置の設計、試作品の試験若しくは評価又はソフトウェアの制作等の外注又は委託に必要な経費
Ⅱ 労務費		助成対象事業に直接従事する職員等に対する人件費。各々の人件費は基本給のほか、賞与、家族手当、住宅手当及び法定福利費を含む。（退職金除く。）
Ⅲ その他経費	i 消耗品	助成対象事業を行うために直接必要な材料及び消耗品費。試作品の製造に必要な経費を含む。
	ii 諸経費	助成対象事業を行うために直接必要な文献購入費、コンピュータ・サーバー・クラウド等の賃借料・使用料、運送費その他事業に必要な経費として機構が認めた経費。
	iii 旅費・交通費	助成対象事業を行うために直接必要な旅費や交通費。

申請から助成金交付までの流れ



- ①【事】公募期間に申請書類を提出
- ②【N】評価委員会(外部有識者)が採択評価を行いNICTへ報告
- ③【N】評価委員会の報告をもとに助成事業を決定
- ④【事】助成金交付決定通知日から助成事業として実施
- ⑤【事】事業の実績(経費)と成果について報告
- ⑥【N】実績報告をもとに助成金の額を確定して総務省へ報告
総務省承認後に助成金交付(支払完了)
- ⑦【事】助成終了後の5年間、助成事業の成果について報告

※事業を継続する場合：年度毎に上記と同じ手続きが必要

②採択評価の際、前年度の成果について事後評価を実施

【事】申請事業者 / 交付決定後は助成対象事業者

【N】 NICT

採択基準

1. 助成対象事業を的確に遂行するに足る能力を有すること。
2. 助成対象事業は、有益性及び波及性のあるもの。また、役務の提供にふさわしい技術を使用していること。
3. 自己のみでは、助成対象事業に係る資金調達が困難であること。
4. 助成対象事業を的確に遂行するのに必要な経費のうち、自己負担分の調達に関して十分な能力を有すること。
5. 助成対象事業に係る経理その他の事務についての的確な管理体制及び処理能力を有すること。

視覚障害者向けのインターホン機能を持つ スマホアプリ提供

本事業は、駅や空港、商業施設等における視覚障害者の「インターホンの設置場所がわからない」、「使い方がわからない」といった課題に対応するもの。
聴覚障害者や外国人に向けに提供されているスマートフォンで使えるインターホンサービスに、音響通信を用いたアプリの自動接続等の視覚障害者向けの機能を追加することで、障害者がインターホンに容易にアクセスでき、利用しやすい環境を提供する。



【新規助成】 ヤマハ(株)

スポーツならびにイベント会場に対応したリアルタイム 実況可視化環境の提供

本事業は、音声認識技術を活用し、スポーツ競技場や各種イベント会場における音声実況を、リアルタイムかつ高精度に文字情報として可視化する環境を提供するもの。
これにより、聴覚に障害のある方々をはじめ、音声情報を十分に取得できない多様な来場者が実況の臨場感や情報をその場で即時に共有・体感できるよう支援し、誰もが楽しめるユニバーサルな観戦・参加体験の実現を目指す。



【新規助成】 (株)リコー

視覚障がい者のためのグローバルに利用可能な 歩行支援アプリの開発

本事業は、視覚障がい者の歩行支援を目的として日本国内において事業化したサービス(視覚障がい者歩行支援アプリEye Navi)の技術を応用し、交差点横断に特化した歩行支援、AIを活用した情景描写等を行うことにより、国内外において視覚障がい者がより安全に歩行できるように支援するサービスを提供するもの。



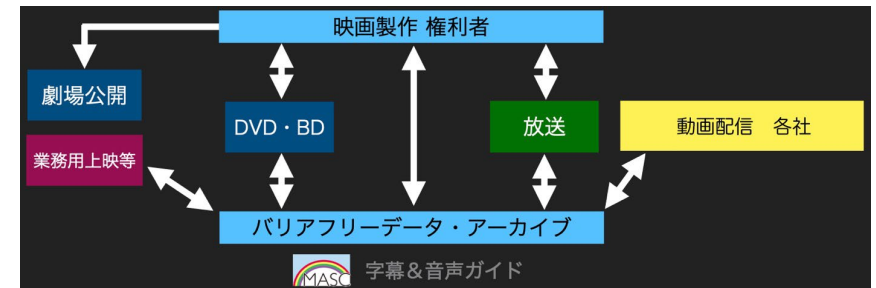
視覚障がい者歩行支援アプリ(Eye Navi)



- 提供する機能
- ✓ 交差点横断支援特化
- ✓ 横断歩道歩行判定
- ✓ 情景描写(生成AI活用)
- ✓ 視覚障がい者向けのUI/UX

視聴覚障害者向けエンターテインメントの 情報保障サービス

本事業は、映像視聴や芸術鑑賞において制作されたバリアフリーデータ(聴覚障害者用字幕・視覚障害者用音声ガイド等)のアーカイブ化、管理・運用を行うとともに、「セカンドスクリーン型情報保障」を進めながら、バリアフリーアーカイブデータのメディア業界全体への提供を行い、視聴覚障害者のバリアフリー視聴環境整備を行うもの。



聴覚障害者のコミュニケーションを支援する会話可視化サービスの提供

本事業は、聴覚障害者も参加する会議等の場において、複数者の音声をリアルタイムで可視化するサービスを提供するもの。

音声認識と独自開発のマイク・専用アプリを用い、「誰が」「何を」話したのか、話者の方向と文字化した音声を表示することができ、AIを用いた会話要約作成機能で、会話全体の内容を簡単に把握もできる。



【継続助成】 ピクシーダストテクノロジーズ(株)

助成金交付実績

(制度開始:平成13年度～)

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度※1	累計※2
応募件数	5件	6件	6件	11件	11件	13件	344件
助成件数	5件	5件	3件	6件	4件	5件	168件
助成額	3,578万円	3,551万円	2,630万円	4,566万円	4,202万円	6,105万円	13億6,524万円

※1 交付決定時のもの

※2 平成13年度以降の累計